

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）

理事長 末松 誠 殿

予防医学・社会医学系領域からの提言

2018年9月3日

日本医学会連合 副会長（社会医学系）	岸 玲子
日本衛生学会 理事長	大槻 剛巳
日本産業衛生学会 理事長	川上 憲人
日本公衆衛生学会 理事長	磯 博康
日本疫学会 理事長	祖父江 友孝

予防医学・社会医学系領域は、人々の疾病やその重症化を予防し、健康を維持・増進するために、基礎医学、臨床医学とともにこれまで大きな役割を果たしてきております。具体的には、医学をベースとして科学的なエビデンスを創出して社会に適用し、地域・職域や国レベルの集団とシステムに働きかけ、健康な生活・行動様式の推進、安全な環境の保持、医療提供システム等の構築に貢献し、人々の健康増進、疾病の予防や回復、平均寿命や健康寿命の延伸、安心と安全の保持の達成に貢献してきました。今後は、少子化超高齢化社会において、革新的な実践研究を推進するソーシャルイノベーションを推進し、トランスレーショナル並びにリバーストランスレーショナル研究の促進に貢献することを目指します。

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が、その名称のごとく「医療研究開発」を基盤として「医療分野の研究成果を一刻も早く実用化し、患者さんやご家族の元にお届けすることを目指す（AMED WEB 末松理事長のご挨拶より抜粋）」ことを目標として捉えていらっしゃることは、十分に掌握させて頂いております。

医学・医療全般、そして国民の健康増進を図る観点を鑑みの中で、予防医学・社会医学の概念と研究の発展もまた、国民ひとりの人生と、その集合体としての社会を念頭におくと、ある疾病の診断が施された時点で、その後は患者への対応としての医療、それまでは医療の範疇に至らないと捉えるものではなく、胎児期から死を迎える直前まで、世代を超えたレベルでの健康の脅威に関連・関与する因子が、遺伝子・細胞レベルから生活習慣や生活環境に至るまでの広範囲に渡って人の健康に影響しており、そのため、表裏一体となった疾病予防・健康増進と疾病発症後の診断と治療の一層の研究開発をもってこそ、医学医療が国民の日々の生活への貢献を大にするものと信じております。

ここに、予防医学・社会医学の観点から、現在の本邦の内包する課題とともに、その立脚点における医学医療領域における研究開発の必要性としてのリサーチ・クエスチョンを提示していくことによって、AMEDに於かれましても、さまざまな疾病の研究開発と連携可能な予防医学の重要性をご理解頂き、さらに、包括的・統合的な健康増進と疾病克服というテーマを鑑みて頂く中で、医学医療のイノベーション創出、トランスレーショナル並びにリバーストランスレーショナル研究の促進の概念に含まれる予防医学の必要性に対してご高配をいただければ、当該領域担当者一同、その理念に基づいて、最大限の努力を払う所存でございます。

なお、資料1、2として私共の領域として、予防（介入）医学・予防系基礎研究から疾病の診断・治療に至るまでを想定したプロジェクト案を同封させていただきます。

また、本提案書に付きましては、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）理事長、厚生労働・文部科学・経済産業の各大臣様および内閣官房健康・医療戦略室長/内閣総理大臣補佐官様にも併せて送付させて頂くこととしております。

何卒よろしくご理解、ご高配の程、お願い申し上げます。